

公開
資料3

第 3 7 3 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和6年10月21日

日 本 学 術 会 議

公開審議事項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 委員会関係						
提案 1	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正(新規設置1件) (2)委員会委員の決定(追加1件) (3)分科会委員の決定(追加6件、取り消し1件) (4)小委員会委員の決定(新規1件)	(1)農学委員会委員長(2)第二部長(3)第一部長、第二部長、第三部長(4)第二部長	3	小委員会の設置に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、委員会委員、分科会委員及び小委員会委員を決定するため。	第一部長、第二部長、第三部長	(1)会則27条1項(2)内規12条1項(3)(4)内規18条
2. シンポジウム等						
提案 2	公開シンポジウム「学びの多様化学校」の学校づくりに学ぶ」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	8	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会 日時：令和6年12月15日(日)13:30～16:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案 3	公開シンポジウム「ライフコース・多職種の関わる生活習慣病予防」の開催について	臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長	10	主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会 日時：令和6年12月22日(日)13:00～15:00 場所：名古屋大学鶴舞キャンパス基礎研究棟(愛知県名古屋市) ※第二部承認	—	内規別表第2
提案 4	公開シンポジウム「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待(仮)」の開催について	科学者委員会委員長	12	主催：日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会、法学委員会ジェンダー法分科会 日時：令和6年12月22日(日)13:30～17:00 場所：オンライン開催 ※科学者委員会、第一部、第二部、第三部承認	—	内規別表第2
提案 5	公開シンポジウム「価値とイノベーションの創発による福祉システムの構築」の開催について	社会学委員会委員長	14	主催：日本学術会議社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会 日時：令和7年1月11日(土)13:00～16:00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案 6	公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2024」の開催について	総合工学委員会委員長	16	主催：日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会 日時：令和7年1月20日(月)10:00～17:00 場所：日本学術会議講堂(東京都港区)(ハイブリッド開催) ※第三部承認	—	内規別表第2

提案7	公開シンポジウム 「わたしたちの食を まもる植物保護科学 の未来」の開催につ いて	農学委員会委員 長	19	主催：日本学術会議農学委員会植物保護 科学分科会 日時：令和7年3月11日（火）13：30～ 17：05 場所：東京大学安田講堂（東京文京区） （ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第 2
-----	---	--------------	----	---	---	------------

3. 後援

提案8	国際会議の後援をす ること	会長	21	以下の国際会議について、後援の申請が あり、国際委員会において審議を行った ところ、適当である旨の回答があったの で、後援とすることとしたい。 ・第6回WCRP再解析国際会議	—	国際学術交 流事業に関 する内規39 条
提案9	国内会議の後援をす ること	会長	22	以下について、後援の申請があり、関係 する部に審議付託したところ、適当であ る旨の回答があったので、後援すること としたい。 ・生物科学学会連合シンポジウム「魅力 ある生物教育をどう実現するか ―高校 生物の新しい方向性について―」	—	後援名義使 用承認基準 3(2)ウ

4. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は11月28日（木）14:30 ～に開催予定。	23

分野別委員会運営要綱（平成26年 8 月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前					
別表第 1					別表第 1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	
農学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	農学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	農学委員会土壌科学分科会	(略)	(略)	(略)		農学委員会土壌科学分科会	(新規設置)			
	農学委員会土壌科学分科会Soil Health小委員会	土壌の健康 (Soil Health) に関するシンポジウムの企画及び土壌の健康に関する意思の表出に係る意見の集約	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和6年11月1日～令和8年9月30日						
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)		

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

農学委員会土壌科学分科会小委員会の設置について

分科会等名：Soil Health 小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	農学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>土壌科学分科会では、第25期に国際基礎科学年シンポジウム「食・土・肥料－SDGs 達成のための基礎科学として」を農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会、一般社団法人日本土壌肥料学会と共同開催した。このまとめでは、土壌の健康 (Soil Health) の重要性が改めて認識された (土肥誌, 94, 481~484. 2023)。国際連合食糧農業機関 (FAO) では土壌の健康を「陸上生態系の生産性、多様性、環境サービスを維持する土壌の能力」と定義しており、EU では Soil Health and Food mission において、また米国では Soil Health Institute が中心となり、それぞれが独自に土壌の健康の評価・改善に取り組んでいる。我が国では農林水産省がみどりの食料システム戦略の中で化学肥料の削減、有機農業の推進を打ち出しており、これらが土壌の健康を高める取組として期待される。以上の背景から第26期では上半期に土壌科学分科会委員による8回の懇談会にて検討を重ね、1) 土壌の健康は人間活動の脅威にさらされているが社会的認識は高いとは言えない、2) 一方、気候変動、食料問題はますます深刻であり土壌の健康の評価と改善の社会実装は喫緊の課題である、と結論づけ、シンポジウムを開催し広く意見を集約し、分科会として意思の表出をすることとした。このためには多角的な視点とそのバランスが必要であることから、外部専門家を含む「Soil Health 小委員会」を設置することとした。</p>
4	審議事項	土壌の健康 (Soil Health) に関するシンポジウムの企画及び土壌の健康に関する意思の表出に係る意見の集約
5	設置期間	令和6年11月1日～令和8年9月30日
6	備考	

【分野別委員会】

○委員会委員の決定（追加1件）

（統合生物学委員会）

氏名	所属・職名	備考
大路 樹生	名古屋大学名誉教授／特任教授	連携会員
海部 陽介	東京大学総合研究博物館教授	連携会員
諏訪 牧子	青山学院大学理工学部化学／生命科学科教授	連携会員
森 章	東京大学先端科学技術研究センター教授	連携会員

【常置（細則第10条第2項）、追加決定後の委員数：9名】

○分科会委員の決定（追加6件）

（心理学・教育学委員会心の総合基礎分科会）

氏名	所属・職名	備考
山口 真美	中央大学文学部教授	連携会員

【設置：第360回幹事会（令和5年12月22日）、追加決定後の委員数：17名】

（地域研究委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・心理学・教育学委員会・社会学委員会・史学委員会・法学委員会・経営学委員会・情報学委員会合同デジタル時代における新しい人文・社会科学に関する分科会）

氏名	所属・職名	備考
小川 健一	防衛大学校防衛学教育学群統率・戦史教育室教授	連携会員

【設置：第367回幹事会（令和6年5月31日）、追加決定後の委員数：27名】

（基礎医学委員会 IUBMB 分科会）

氏名	所属・職名	備考
斉藤 典子	公益財団法人がん研究会がん研究所がん生物部部長	連携会員
水島 昇	東京大学大学院医学系研究科分子細胞生物学専攻分子生物学分野教授	連携会員

【設置：第351回幹事会（令和5年8月29日）、追加決定後の委員数：7名】

（薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会）

氏名	所属・職名	備考
末松 誠	公益財団法人実中研所長	連携会員

萩原 正敏	京都大学大学院医学研究科形態形成機構学 教室教授	連携会員
-------	-----------------------------	------

【設置：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、追加決定後の委員数：13 名】

(総合工学委員会原子力安全に関する分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
徳永 朋祥	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授 ／研究科長	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：17 名】

(機械工学委員会生産科学分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
鈴木 宏正	東京大学名誉教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：14 名】

○分科会委員の決定（取り消し 1 件）

第 357 回幹事会（令和 5 年 10 月 27 日開催）で決定した下記の者については、決定を取り消すこととする。

(基礎医学委員会 IUBMB 分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
中野 明彦	国立研究開発法人理化学研究所光量子工学研 究センター・副センター長	連携会員

○小委員会委員の決定（新規 1 件）

(農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
渡辺 京子	玉川大学農学部教授	第二部会員
犬伏 和之	東京農業大学応用生物科学部農芸化学科教 授	連携会員
川東 正幸	東京都立大学大学院都市環境科学研究科地 理環境学域教授	連携会員
小崎 隆	愛知大学国際問題研究所名誉教授	連携会員
信濃 卓郎	北海道大学大学院農学研究院教授	連携会員
波多野 隆介	北海道大学名誉教授	連携会員

藤井 一至	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員	連携会員
山口 紀子	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門化学物質リスク研究領域グループ長補佐	連携会員

【設置予定：第 373 回幹事会（令和 6 年 10 月 21 日）、決定後の委員数：15 名】

公開シンポジウム
「学びの多様化学校」の学校づくりに学ぶ」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会不登校現象と学校づくり分科会
2. 共 催：一般社団法人日本教育学会近畿地区、京都大学大学院教育学研究科教育実践
コラボレーション・センター
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 6（2024）年 12 月 15 日（日）13：30 ～ 16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

文部科学省が令和 5 年（2023 年）10 月に公表した「令和 4 年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」では、不登校児童生徒数が過去最多を記録したことが示された。

子どもたちの十全な発達と学力を保障するという観点からは、教育機会確保法（平成 28 年（2016 年）制定）で示されたとおり、学校以外の居場所を確保するといった支援の充実も重要である。一方で、学校の在り方を問い直し、「学校」という概念そのものを捉え直すことも喫緊の課題であろう。

そこで「不登校現象と学校づくり分科会」では、不登校をめぐる様々な分野での研究成果を集約するとともに、学校の在り方を問い直すことで包摂性を高めているような事例を検討する。これらを踏まえつつ、今後、求められる「学校」の概念、ならびに学校づくりの方向性を考究する。

本シンポジウムでは、「学びの多様化学校」において、どのような工夫がなされているのかをご紹介いただき、今後、求められる学校の在り方について検討する。

9. 次 第：

司会

山名 淳（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

小柳 和喜雄（一般社団法人日本教育学会近畿地区理事／関西大学総合情報学部教授）

13：30 開会挨拶・趣旨説明

西岡 加名恵（日本学術会議第一部会員／一般社団法人日本教育学会近畿地区理事／京都大学大学院教育学研究科教授・教育実践コラボレーション・センター長）

13：35 報告1 八王子市立高尾山学園小学部・中学部の取り組み

黒沢 正明（八王子市立高尾山学園小学部・中学部校長）

14：00 報告2 岐阜市立草潤中学校の取り組み

鷺見 佐知（岐阜市立草潤中学校校長）

14：25 報告3 大和郡山市立郡山北小学校・郡山中学校分教室「ASU」の取り組み

西尾 真理（大和郡山市立郡山北小学校・郡山中学校分教室「ASU」教諭）

14：50 休憩

15：00 質疑応答・全体討論

指定討論：伊藤 美奈子（日本学術会議連携会員（特任）／奈良女子大学研究生院生活環境科学系教授）

酒井 朗（日本学術会議連携会員／上智大学総合人間科学部教育学科教授）

15：55 総括・閉会挨拶

勝野 正章（日本学術会議第一部会員／東京大学大学院教育学研究科教授）

16：00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「ライフコース・多職種に関わる生活習慣病予防」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会
2. 共 催：一般社団法人日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会
(第9回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会年次学術集会において併催)
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6（2024）年12月22日（日）13：00～15：00
5. 場 所：名古屋大学鶴舞キャンパス基礎研究棟4F（愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

生活習慣病予防対策は、労働安全衛生法、健康増進法、高齢者医療確保法等の種々の法的基盤のもと実施されてきているが、社会の要請と時代に応じた変化が求められる。喫緊の課題として、情報通信技術（ICT）の利活用、産官学連携の枠組みの整理、保健医療専門職の専門性深化と総合性の涵養、多職種連携に係る生涯教育、学校教育現場の生活・保健等の教育に資する教材や人材の育成や学校という場にとらわれない教育資源の開発が挙げられる。そこで、生活習慣病予防の実践に係るこれらの課題について、各分野の専門家から情報提供・問題提起をいただき、期待される将来像とその実現のための解決案について一般参加者も含めて討論する。

9. 次 第：

13:00	開会	座 長 <u>野出 孝一</u> （日本学術会議第二部会員／健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会委員長／佐賀大学医学部医学部長／内科主任教授） <u>池田 彩子</u> （日本学術会議連携会員／健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会）
-------	----	---

		幹事／名古屋学芸大学管理栄養学部教授)
	趣旨 説明	池田 彩子 (日本学術会議連携会員／健康・生活科学委員会・臨床 医学委員会合同生活習慣病対策分科会幹事／名古屋学芸 大学管理栄養学部教授)
13:05	講演 1	<u>中山 健夫 (日本学術会議連携会員／京都大学大学院医学研究科社会 健康医学系専攻健康情報学分野教授)</u> 「予防・健康づくりのヘルスケア社会実装基盤整備:AMED の取り組み」
13:30	質疑	
13:35	講演 2	山岸 良匡 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学教授) 「ライフコースの観点からみた我が国の健診・検診プログラム」
14:00	質疑	
14:05	講演 3	和田 恵子 (岐阜大学大学院医学系研究科疫学・予防医学分野准教授) 「未来を築く：子どもの健康を支える生活習慣の探求」
14:30	質疑	
14:35	総合 討論	司会 野出 孝一 (日本学術会議第二部会員／健康・生活科学委員会・臨床 医学委員会合同生活習慣病対策分科会委員長／佐賀大学 医学部医学部長／内科主任教授) 討論者 池田 彩子 (日本学術会議連携会員／健康・生活科学委員会・臨床医 学委員会合同生活習慣病対策分科会幹事／名古屋学芸大 学管理栄養学部教授) 中山 健夫 (日本学術会議連携会員／京都大学大学院医学研究科社会 健康医学系専攻健康情報学分野教授) 山岸 良匡 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学教授) 和田 恵子 (岐阜大学大学院医学系研究科疫学・予防医学分野准教授)
14:55	総括	野出 孝一 (日本学術会議第二部会員／健康・生活科学委員会・臨床 医学委員会合同生活習慣病対策分科会委員長／佐賀大学 医学部医学部長／内科主任教授)
15:00	閉会	

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「第6次男女共同参画基本計画に向けた日本学術会議の期待（仮）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会、第一部総合ジェンダー分科会、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、第三部理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会、法学委員会ジェンダー法分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年（2024年）12月22日（日）13：30～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
2025年度（令和7年度）に第6次男女共同参画基本計画が策定される予定である。日本学術会議は、従来も第4次、第5次男女共同参画基本計画に向けた提言を発出してきている（<https://www.scj.go.jp/ja/scj/gender/index.html>）。
本公開シンポジウムでは、日本社会のジェンダー・エクイティ推進のために、第6次男女共同参画基本計画において取り上げるべき重大問題について、広い関係者で情報を共有し、提言作成につながるような議論を行う。
9. 次 第：
13:30～13:35 開催挨拶
高橋裕子（日本学術会議第一部会員、ジェンダー・エクイティ分科会委員長、津田塾大学学長）
13:35～13:40 来賓挨拶
内閣府男女共同参画局関係者（予定）（5分）

13:40～14:10 基調講演「第6次男女共同参画計画に向けた課題と学術会議の提案（仮）」
白波瀬佐和子（日本学術会議第一部会員、社会学委員会ジェンダー・世代等の交差 と

包摂分科会委員長、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授)

14:10～14:40 講演1 「STEM分野の女性教員、女子学生・院生増加の方策・ポジティブ・アクション (PA) (仮)」

玉田 薫 (日本学術会第三部会員、ジェンダー・エクイティ分科会第6次男女共同参画基本計画小分科会副委員長、九州大学主幹教授・副学長)

休憩 10分

14:50～15:20 講演2 「性差医療とジェンダー・エクイティ (仮)」

名越澄子 (日本学術会議連携会員、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授)

15:20～15:50 講演3 「包括的反差別法の定義と意義—性的複合差別・性的少数者差別の解消のために」

木村草太 (日本学術会議連携会員、ジェンダー・エクイティ分科会包括的反差別法 小分科会委員長、東京都立大学政治学研究科・法学部教授)

休憩 10分

16:00～16:55 会場との対話・全体総括
(ファシリテーター)

三成美保 (日本学術会議連携会員、追手門学院大学教授・奈良女子大学名誉教授)

島岡まな (日本学術会議第一部会員、ジェンダー・エクイティ分科会第6次男女共同参画基本計画小分科会委員長、大阪大学大学院法学研究科教授・副学長)

16:55～17:00 閉会挨拶

森 初果 (日本学術会議第三部会員、東京大学物性研究所教授)

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会、第一部、第二部、第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「価値とイノベーションの創発による福祉システムの構築」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会価値とイノベーションの創発による福祉システム
検討分科会
2. 共 催：日本社会福祉系学会連合、東洋大学福祉社会開発研究センター
3. 後 援：社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社
団法人日本精神保健福祉士協会、公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー
協会、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟
4. 日 時：令和7（2025）年1月11日（土）13：00～16：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

人口減少・少子高齢化の進展や世帯規模の縮小に伴い、福祉・介護人材の不足が顕在化するとともに、社会的孤立の蔓延や複合的な課題の増加など、旧来の福祉システムでは対応が困難な事態が生じている。こうした状況に鑑み、社会福祉の価値の検討を踏まえつつ、発展するテクノロジーを活用する、イノベーションの創発による福祉システムの構築が求められている。本シンポジウムでは、イノベティブな取組やその研究成果を共有し、新たな福祉システムのあり方を議論する。

9. 次 第：

司会 金子 光一（日本学術会議連携会員／東洋大学常務理事／福祉社会
デザイン学部社会福祉学科教授／東洋大学福祉社会開発研究セ
ンター研究員／日本社会福祉系学会連合会長）

挨拶

13:00 開会挨拶及び趣旨説明

和氣 純子（日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教
授／一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長）

第Ⅰ部 報告

13:10 「福祉社会とイノベーション」

広井 良典（日本学術会議第一部会員／京都大学人と社会の未来研究院教授）

13:35 「人間拡張技術と少子高齢化時代の介護サービス」

持丸 正明（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所
人間拡張研究センター長）

14:00 「『わたしたちごと』としてのケアを建築に、あたりまえに」

山田 あすか（日本学術会議連携会員／東京電機大学未来科学部建築学科教授）

14:25 「総合知による子ども未来創造：価値とイノベーション創発の実践的課題」

山野 則子（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院現代システム科学研究科教授／一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟副
会長）

休憩（10分）（14:50～15:00）

第Ⅱ部 コメント・討論

15:00 コメント

木原 活信（日本学術会議連携会員／同志社大学副学長／社会学部教授）

15:10 討論

挨拶

15:55 閉会挨拶

保正 友子（日本学術会議連携会員／日本福祉大学社会福祉学部学部長）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「原子力総合シンポジウム 2024」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会原子力安全に関する分科会
2. 共 催：一般社団法人エネルギー・資源学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本アイソトープ協会、日本アーカイブズ学会、一般社団法人日本応用地質学会、一般社団法人日本海洋学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本核医学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、日本混相流学会、一般社団法人日本シミュレーション学会、公益社団法人日本心理学会、一般社団法人日本電気協会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本放射化学会、一般社団法人日本放射線影響学会、一般社団法人日本保全学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本ロボット学会、一般社団法人プラズマ・核融合学会（以上、全て予定）
3. 後 援：一般社団法人環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会、日本海水学会、公益社団法人日本技術士会、公益社団法人日本コンクリート工学会、一般社団法人日本地質学会、公益社団法人日本農芸化学会（以上、全て予定）
4. 日 時：令和 7（2025）年 1 月 20 日（月）10：00 ～ 17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
原子力総合シンポジウムは、我が国の原子力について総合的に議論を行う場である。日本学術会議と日本原子力学会等が協力し、各界の識者を交えて、これまで 50 年以上にわたり中長期的視点から議論が行われてきた。
今年度は、午前に本分科会における「原発事故の環境影響に関する検討小委員会」の活動報告を行う。午後は原子力のリスクに関して、様々な分野の専門家による講演をいただき、総合討論において議論を深める。

9. 次 第:

10:00-10:10 開会挨拶 関村 直人 (日本学術会議連携会員/東京大学名誉教授/東京大学大学院工学系研究科上席研究員)

テーマ:「原発事故の環境影響に関する検討小委員会」の活動報告

司会 越塚 誠一 (日本学術会議第三部会員/東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授)

10:10-10:40「原発事故の環境影響に関する知見の進展・蓄積と課題」(仮)

森口 祐一 (日本学術会議第三部会員/国立研究開発法人国立環境研究所理事(研究担当))

10:40-11:10「原発事故の大気拡散評価」(仮)

山澤 弘実(名古屋大学名誉教授/公益財団法人環境科学技術研究所理事)

11:10-11:40「原発事故とALPS処理水放出の海洋環境影響」(仮)

津旨 大輔(筑波大学放射線・アイソトープ地球システム研究センター教授)

招待講演(13:00-15:30)

テーマ:「原子力のリスクをどのように考えるか」

司会 野口 和彦(日本学術会議連携会員/横浜国立大学IMSリスク共生社会創造センター客員教授)

13:00-13:30「安全目標を巡る議論について」(仮)

更田 豊志(原子力損害賠償・廃炉等支援機構上席技監/東京大学大学院工学系研究科上席研究員)

13:30-14:00「複雑システムのリスクとステークホルダコミュニケーション」

小野 恭子(日本学術会議連携会員/国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門研究グループ長)

14:00-14:30「検査制度にみるリスク・インフォームド規制」(仮)

近藤 寛子(合同会社マトリクスK代表)(調整中)

司会 岩城 智香子(日本学術会議連携会員/東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー)

14:30-15:00(講演タイトル・講演者調整中)

上坂 充(原子力委員会委員長)

15:00-15:30(講演タイトル・講演者調整中)

(原子力規制委員会・規制庁)

総合討論(15:40-16:50)

コーディネーター 関村 直人(日本学術会議連携会員/東京大学名誉教授/東京大学大学院工学系研究科上席研究員)

パネリスト 森口 祐一（日本学術会議第三部会員／国立研究開発法人国立環境研究所理事（研究担当））
更田 豊志（原子力損害賠償・廃炉等支援機構上席技監／東京大学大学院工学系研究科上席研究員）
小野 恭子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門研究グループ長）
近藤 寛子（合同会社マトリクスK代表）
岩城 智香子（日本学術会議連携会員／東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）
上坂 充（原子力委員会委員長）
（原子力規制委員会）調整中
大井川 宏之（一般社団法人日本原子力学会会長）

16:50-17:00 閉会挨拶：大井川 宏之（一般社団法人日本原子力学会会長）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「わたしたちの食をまもる植物保護科学の未来」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会
2. 共 催：日本農薬学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 3 月 11 日（火）13：30 ～ 17：05
5. 場 所：東京大学安田講堂（東京都文京区本郷 7-3-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

近年著しい気候変動に伴う農作物の生育障害、温暖化に伴う主産地や病害虫の北上、土壌侵食や砂漠化による農地の荒廃等の諸問題は、世界的な人口増加に対応した食糧生産を困難にしている。その中で、化学農薬や化学肥料を有効利用した農業は、食糧の安定供給に大きく貢献しているものの、それら化学物質の安全利用に対するリスクコミュニケーションは必ずしも十分ではなく、人体や環境、生物への影響に対する一般市民の不安が収まらない状況にある。

本シンポジウムでは、農作物の病害虫・雑草防除に使用される化学物質の安全性評価を学び、防除手段の設計、リスク、環境への影響などを高精度かつ高速に予測する計算機の未来、農作物の病害虫に対する抵抗力を支える植物の水分調節の仕組み、及び自然の力を生かした植物保護科学の未来について第一線の科学者に紹介していただく。そのことを通じて、未来の植物保護科学の発展を担う人材のみならず、一般市民にも食料供給の要を担う化学農薬に理解を深めていただくことを目指す。

9. 次 第：

総合司会 水口 智江可（名古屋大学大学院生命農学研究科准教授）

13:30 開会の挨拶

松田 一彦（日本学術会議連携会員／近畿大学農学部応用生命化学科教授）

第1セッション「植物保護におけるリスク評価と判断」

13:35 『ほんとうの「食の安全」を考える』

畝山 智香子（国立医薬品食品衛生研究所客員研究員）

14:20 『「AI for Science 研究は AI 研究にあらず」：理研における AI for Science、特に生成 AI の科学への適用を目指す TRIP-AGIS』

松岡 聡（理化学研究所計算科学研究センターセンター長／東京科学大学情報理工学院特定教授）

休憩（15分）（15：05～15：20）

第2セッション「植物保護と人類」

15:20 『植物が乾燥から身を守るしくみの解明と育種への応用』

篠崎 和子（東京農業大学総合研究所教授／東京大学名誉教授）

16:05 『微生物と歩んだ半世紀 一人類の福祉と保健の向上にむけてー』

大村 智（日本学術会議栄誉会員／日本学士院会員／北里大学特別栄誉教授）

総合討論 松本 宏（日本学術会議連携会員／筑波大学名誉教授）

閉会の挨拶 與語 靖洋（公益財団法人日本植物調節剤研究協会研究所技術顧問）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国際会議の後援（1件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第6回 WCRP 再解析国際会議

主催：世界気候研究計画（WCRP）、気象庁、東京大学、地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点（ClimCORE：Climate change actions with CO-creation powered by Regional weather information and E-technology）

期間：令和6年10月28日（月）～11月1日（金）

場所：東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール

参加予定国数：36 各国・地域

申請者：第6回WCRP再解析国際会議

国際企画委員会委員長 中村 尚

※国際委員会 10月18日承認、同国際会議主催等検討分科会 10月8日承認

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 生物科学学会連合シンポジウム「魅力ある生物教育をどう実現するか ―高校生物の新しい方向性について―」

主催：生物科学学会連合

期間：令和6年12月21日（土）

場所：東京大学弥生キャンパス 弥生講堂・一条ホール

参加予定者数：約100名

申請者：生物科学学会連合

代表 東原 和成

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

○今後の予定

●幹事会

第374回幹事会	令和6年11月28日(木)	14:30から
第375回幹事会	令和6年12月20日(金)	14:30から
第376回幹事会	令和7年1月23日(木)	14:30から
第377回幹事会	令和7年2月27日(木)	14:30から
第378回幹事会	令和7年3月27日(木)	14:30から

●総会

第192回総会	令和6年10月21日(月)～23日(水)
第193回総会	令和7年4月14日(月)～16日(水)